



平成24年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月14日

上場取引所 大

上場会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

コード番号 7707 URL <http://www.pss.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 田島 秀二

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役業務本部長

(氏名) 秋本 淳

TEL 047-303-4800

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年6月期第2四半期の連結業績(平成23年7月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年6月期第2四半期	1,722	12.6	△49	—	△79	—	△95	—
23年6月期第2四半期	1,529	△43.9	△153	—	△162	—	△158	—

(注) 包括利益 24年6月期第2四半期 △144百万円 (—%) 23年6月期第2四半期 △173百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年6月期第2四半期	△1,044.45	—
23年6月期第2四半期	△1,738.79	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年6月期第2四半期	4,544	2,717	56.3
23年6月期	4,602	2,861	58.8

(参考) 自己資本 24年6月期第2四半期 2,559百万円 23年6月期 2,704百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年6月期	—	0.00	—	—	—
24年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年6月期の連結業績予想(平成23年7月1日～平成24年6月30日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,620	15.2	10	—	△30	—	△60	—	△657.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年6月期2Q	91,260 株	23年6月期	91,260 株
24年6月期2Q	— 株	23年6月期	— 株
24年6月期2Q	91,260 株	23年6月期2Q	91,260 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」、ならびに平成24年2月7日発表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

・当社は、平成24年2月29日(水)に機関投資家向け決算説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（その他）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による経済活動の停滞からは回復の兆しが見られるものの、資源価格の高騰や円高傾向が継続していることから、先行きは不透明な状況となっております。

このような状況の中、当社グループは、バイオ関連業界において、遺伝子やタンパク質の解析や診断に利用される自動化装置の製造販売、それら装置に使用される試薬や反応容器などの消耗品類の製造販売に注力してまいりました。

当社グループの主力製品は、血液や組織細胞から遺伝子やタンパク質を抽出・精製するための自動化装置（DNA自動抽出装置）であり、当社の特許技術を利用したオリジナル製品群であります。これら製品は、大手企業へのOEM販売（相手先ブランドによる販売）を中心にワールドワイドに展開しております。主要なOEM先は、ロシユグループ、キアゲングループ、三菱化学メディエンス㈱、ライフテクノロジーズ社、ベックマン・コールター社、ナノストリング社などとなっております。

また、近年はOEMばかりではなく、自社ブランドによる販売展開にも注力しております。

前第2四半期連結累計期間は、一昨年の新型インフルエンザの流行が収束する過程で、OEM先において当社製品（装置及び消耗品）が過剰在庫となった影響から、大幅に売上高を落とす結果となりましたが、当第2四半期連結累計期間は、一部にその影響は残るものの、キアゲングループ向け販売の回復や自社販売の増加などから、売上高1,722百万円（前年同期比12.6%増）、売上総利益650百万円（前年同期比19.7%増）と増収増益を確保いたしました。

一方で、販売費及び一般管理費は、ほぼ前年同期並みの699百万円（前年同期比0.4%増）となり、その結果、営業損失49百万円（前年同期は営業損失153百万円）となりました。また、為替差損24百万円の計上などから、経常損失79百万円（前年同期は経常損失162百万円）、四半期純損失95百万円（前年同期は四半期純損失158百万円）となりました。

取引先別の販売状況は、下表のとおりであります。

	前第2四半期 連結累計期間		当第2四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
ロシユグループ	432	28.3	388	22.6	△10.1	944	30.1
キアゲングループ	394	25.8	491	28.5	24.6	700	22.3
その他OEM先	519	33.9	550	31.9	5.9	1,136	36.1
自社販売先	183	12.0	292	17.0	59.7	360	11.5
合計	1,529	100.0	1,722	100.0	12.6	3,142	100.0

ロシユグループ向け販売は、前述の過剰在庫の影響が未だに残る形となり、売上高388百万円（前年同期比10.1%減）となりました。ただし、第1四半期に比べると回復基調にありますので、第3四半期以降は更に期待できるものと考えております。

キアゲングループ向け販売は、第1四半期に引続き好調な販売を維持し、売上高491百万円（前年同期比24.6%増）となりました。

その他OEM先に関しましては、第1四半期は低調であったものの、米国ライフテクノロジーズ社や三菱化学メディエンス㈱向け販売などが好調に推移し、売上高550百万円（前年同期比5.9%増）となりました。

自社販売に関しましては、前連結会計年度より注力しているエピジェネティクス分野に対する装置及び試薬の販売が拡大してきたことや米国ナノストリング社が供給している遺伝子解析装置に関する日本国内への販売代理活動などが功を奏し、売上高292百万円（前年同期比59.7%増）となりました。

製品区分別の売上高は、下表のとおりであります。

	前第2四半期 連結累計期間		当第2四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
DNA自動抽出装置等	978	63.9	1,001	58.1	2.4	1,990	63.3
試薬・消耗品類	349	22.9	453	26.3	29.6	790	25.2
メンテナンス関連	163	10.7	163	9.5	0.4	311	9.9
その他	38	2.5	104	6.1	171.0	49	1.6
合計	1,529	100.0	1,722	100.0	12.6	3,142	100.0

(注) 当連結会計年度より、製品区分の表示を変更しております。当第2四半期連結累計期間を前連結会計年度における製品区分別に表示すると、DNA自動抽出装置等1,001百万円、プラスチック消耗品402百万円、その他理化学機器104百万円、その他製品214百万円となります。

① DNA自動抽出装置等

当区分は、当社の特許技術を利用した自動化装置の区分であり、ロシユグループやキアゲングループ等に供給しているDNA自動抽出装置の他、三菱化学メディエンス㈱に供給している免疫化学発光測定装置や自社ブランド展開しているタンパク質自動精製装置などがあります。

当第2四半期連結累計期間は、ロシユグループ向け販売が前年同期比で減少したものの、キアゲングループや三菱化学メディエンス㈱向け販売が好調に推移し、売上高1,001百万円（前年同期比2.4%増）となりました。

四半期毎の販売推移は、下表のとおりであります。販売単価は、為替の影響や機種により価格帯が異なることなどから、変動しているものであります。

	前連結会計年度				当連結会計年度	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
販売台数（台）	316	169	281	244	243	331
販売金額（千円）	623,144	355,111	546,226	466,266	456,905	544,719
販売単価（千円）	1,971	2,101	1,943	1,910	1,880	1,645

② 試薬・消耗品類

当区分は、DNA抽出やタンパク精製などに利用される各種の試薬及び当社装置の使用に伴い消費される反応容器などの専用プラスチック消耗品の区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社で試薬を製造販売しておりますが、プラスチック消耗品類は当社から購入する契約となっております。

当第2四半期連結累計期間は、過剰在庫の調整もほぼ終了し、売上高453百万円（前年同期比29.6%増）となりました。当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

③ メンテナンス関連

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ（交換部品）販売などの区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社でメンテナンス対応しておりますが、スペアパーツは当社から購入する契約となっております。

当第2四半期連結累計期間は、売上高163百万円（前年同期比0.4%増）となりました。当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

④ その他

当区分は、上記①②③のいずれにも該当しない売上を区分しています。主には、研究施設などで利用される特注自動化機器や顧客要求に基づく新規の製品開発、他社製品の販売代理活動などの売上が区分されています。

当第2四半期連結累計期間は、米国ナノストリング社が供給している遺伝子解析装置に関する日本国内への販売代理活動などが功を奏し、売上高104百万円（前年同期比171.0%増）となりました。当区分の売上高は、開発案件の受注状況などにより大きく変動いたします。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 日本

当第2四半期連結累計期間の日本の売上高は1,437百万円（前年同期比12.8%増）となり、その内、外部顧客への売上高は517百万円（前年同期比91.1%増）となりました。三菱化学メディエンス㈱向け販売や自社販売などの国内販売が好調に推移いたしました。一方、営業費用は1,426百万円（前年同期比3.1%増）となり、営業利益11百万円（前年同期は営業損失108百万円）となりました。

② 米国

当第2四半期連結累計期間の米国の売上高は292百万円（前年同期比28.0%減）となりました。ライフテクノロジー社向け販売は好調なもの、その他の米国OEM先への販売が低調であったことから減収となりました。一方、営業費用は291百万円（前年同期比24.8%減）となり、営業利益1百万円（前年同期比94.4%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間は、減収減益となったものの、米国では現在、次世代シーケンサーの普及に伴い、その前処理をターゲットとした当社製品の応用分野の拡大が進んでおりますので、第3四半期以降での回復は十分に期待できるものと考えております。

③ ドイツ

当第2四半期連結累計期間のドイツの売上高は915百万円（前年同期比7.1%増）となりました。キアゲングループ向け販売が好調に推移いたしました。一方、営業費用は884百万円（前年同期比5.0%増）となり、営業利益31百万円（前年同期比147.2%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は4,544百万円となり、前連結会計年度末に比べて57百万円の減少となりました。受取手形及び売掛金が78百万円増加、たな卸資産が109百万円増加した一方、現金及び預金が105百万円減少、未収還付消費税等の減少などでその他流動資産が58百万円の減少、減価償却などで有形固定資産が71百万円減少いたしました。

負債合計は1,827百万円となり、前連結会計年度末に比べて86百万円の増加となりました。流動負債において、1年内返済予定の長期借入金が130百万円増加した一方、1年内償還予定の社債が200百万円減少、買掛金が60百万円減少、未払金や未払費用の減少などでその他流動負債が31百万円減少いたしました。また、固定負債において長期借入金が239百万円増加いたしました。

純資産合計は2,717百万円となり、前連結会計年度末に比べて144百万円の減少となりました。四半期純損失の発生により利益剰余金が95百万円減少した他、為替換算調整勘定が49百万円減少いたしました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より105百万円減少し1,885百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

<営業活動におけるキャッシュ・フロー>

減価償却費60百万円などによる資金の増加がありましたが、税金等調整前当期純損失79百万円、売上債権の増加110百万円、たな卸資産の増加111百万円などによる資金の減少があり、営業活動によるキャッシュ・フローとしては、206百万円の減少（前年同期は85百万円の減少）となりました。

<投資活動におけるキャッシュ・フロー>

有形固定資産の取得による支出26百万円、無形固定資産の取得による支出3百万円の資金の減少があり、投資活動によるキャッシュ・フローとしては、28百万円の減少（前年同期は127百万円の減少）となりました。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

長期借入れによる収入500百万円の資金の増加がありましたが、社債の償還による支出200百万円、長期借入金の返済による支出129百万円などの資金の減少があり、財務活動によるキャッシュ・フローとしては、164百万円の増加（前年同期は136百万円の減少）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年2月7日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、通期見通しは下表のとおりであります。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益又は 営業損失 (△)	経常利益又は 経常損失 (△)	当期純利益又は 当期純損失 (△)
当連結会計年度予想	3,620	10	△30	△60
(参考) 前連結会計年度	3,142	△432	△424	△366

第3四半期以降、ロシユグループ向け販売の更なる回復を見込むとともに、米国での新規OEM先の獲得による新製品開発の受託を目論んでおります。第2四半期連結累計期間と比べ、こういった売上増加の要因を見込み、売上高3,620百万円（前年同期比15.2%増）、売上総利益1,360百万円（前年同期比25.0%増）といたしました。

一方で、販売費及び一般管理費は、第3四半期以降コスト削減に努め、1,350百万円（前年同期比11.2%減）とし、その結果、営業利益10百万円（前年同期は営業損失432百万円）となりました。

その他、第2四半期連結累計期間で計上した為替差損24百万円の影響などから、経常損失30百万円（前年同期は経常損失424百万円）、当期純損失60百万円（前年同期は当期純損失366百万円）といたしました。

なお、第3四半期以降の為替見通しは、1ユーロ=100円、1ドル=77円にて算定しております。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,990,458	1,885,394
受取手形及び売掛金	551,405	629,499
商品及び製品	689,475	764,412
仕掛品	44,385	67,744
原材料及び貯蔵品	30,417	41,170
繰延税金資産	21,792	21,103
その他	148,047	89,897
貸倒引当金	△1,819	△3,762
流動資産合計	3,474,163	3,495,460
固定資産		
有形固定資産	821,078	749,672
無形固定資産	23,836	24,117
投資その他の資産	283,477	275,640
固定資産合計	1,128,392	1,049,430
資産合計	4,602,555	4,544,890
負債の部		
流動負債		
買掛金	232,078	171,430
1年内償還予定の社債	200,000	—
1年内返済予定の長期借入金	233,387	364,280
リース債務	11,213	11,275
未払法人税等	14,734	23,145
賞与引当金	5,916	13,073
その他	183,175	151,325
流動負債合計	880,505	734,529
固定負債		
長期借入金	807,235	1,046,777
リース債務	13,601	7,948
繰延税金負債	38,399	37,425
その他	991	677
固定負債合計	860,227	1,092,827
負債合計	1,740,733	1,827,357

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,217,194	2,217,194
資本剰余金	251,999	251,999
利益剰余金	340,298	244,982
株主資本合計	2,809,492	2,714,176
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△104,509	△154,323
その他の包括利益累計額合計	△104,509	△154,323
新株予約権	3,049	3,049
少数株主持分	153,790	154,630
純資産合計	2,861,822	2,717,532
負債純資産合計	4,602,555	4,544,890

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	1,529,535	1,722,950
売上原価	986,291	1,072,895
売上総利益	543,244	650,055
販売費及び一般管理費	697,083	699,571
営業損失(△)	△153,839	△49,516
営業外収益		
受取利息	628	268
持分法による投資利益	7,466	—
負ののれん償却額	1,606	—
助成金収入	14,091	1,485
保険戻戻金	—	1,544
その他	2,520	2,321
営業外収益合計	26,313	5,620
営業外費用		
支払利息	9,682	8,054
為替差損	25,276	24,355
その他	441	3,430
営業外費用合計	35,400	35,840
経常損失(△)	△162,926	△79,736
特別利益		
固定資産売却益	628	563
貸倒引当金戻入額	3,105	—
その他	11	—
特別利益合計	3,746	563
特別損失		
固定資産除却損	42	—
特別損失合計	42	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△159,223	△79,173
法人税、住民税及び事業税	34,747	16,398
法人税等調整額	△19,400	△1,095
法人税等合計	15,346	15,303
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△174,569	△94,476
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△15,888	839
四半期純損失(△)	△158,681	△95,316

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△174,569	△94,476
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	687	△49,813
その他の包括利益合計	687	△49,813
四半期包括利益	△173,882	△144,290
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△157,994	△145,129
少数株主に係る四半期包括利益	△15,888	839

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△159,223	△79,173
減価償却費	78,356	60,104
のれん償却額	△1,338	—
引当金の増減額(△は減少)	6,816	9,467
受取利息及び受取配当金	△628	△268
支払利息	9,682	8,054
持分法による投資損益(△は益)	△7,466	3,377
固定資産売却損益(△は益)	△628	△563
固定資産除却損	42	—
売上債権の増減額(△は増加)	243,230	△110,197
たな卸資産の増減額(△は増加)	△53,723	△111,689
仕入債務の増減額(△は減少)	△83,402	△20,122
その他	△64,265	45,638
小計	△32,548	△195,371
利息及び配当金の受取額	628	4,971
利息の支払額	△9,865	△8,576
法人税等の支払額	△43,786	△7,991
営業活動によるキャッシュ・フロー	△85,571	△206,967
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△126,058	△26,256
有形固定資産の売却による収入	2,856	1,193
無形固定資産の取得による支出	△5,000	△3,601
その他	600	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△127,601	△28,665
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	500,000	500,000
長期借入金の返済による支出	△148,948	△129,565
社債の償還による支出	△350,000	△200,000
リース債務の返済による支出	△4,640	△5,591
配当金の支払額	△132,959	△348
財務活動によるキャッシュ・フロー	△136,547	164,495
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,266	△33,926
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△350,986	△105,064
現金及び現金同等物の期首残高	2,636,442	1,990,458
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,285,455	1,885,394

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年7月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	ドイツ	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	270,591	405,793	853,151	1,529,535	—	1,529,535
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,003,572	390	1,995	1,005,958	△1,005,958	—
計	1,274,163	406,183	855,146	2,535,494	△1,005,958	1,529,535
セグメント利益又はセグメン ト損失(△)	△108,450	18,418	12,553	△77,478	△76,360	△153,839

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△76,360千円には、セグメント間取引消去5,201千円及び、配賦不能営業費用△81,561千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	ドイツ	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	517,109	291,720	914,120	1,722,950	—	1,722,950
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	920,322	760	1,624	922,706	△922,706	—
計	1,437,432	292,481	915,744	2,645,657	△922,706	1,722,950
セグメント利益又はセグメン ト損失(△)	11,330	1,038	31,038	43,407	△92,923	△49,516

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△92,923千円には、セグメント間取引消去△11,220千円及び、配賦不能営業費用△81,702千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。